

# 東京日々新聞

四百九一號



盆過ぎて宵闇ならき永代の橋間はゆくの  
 家根船の小るうと  
 鳴りて橋上より投込さるる女子あり  
 あげぬふるまけてたど呼あのみ  
 せん術彼間ふたふととぬより三浦  
 某君が夫たすけらと情のひと言  
 船人くくろり得

一葉齋  
 女方後成  
 號

入水の子細と尋問ふ是は中橋  
 和泉町ある浅野又兵衛が召仕して  
 安房國館山町小紫茂七が娘ととて十七  
 年五月おるれる者ありなれども深川小所安  
 ありて其に歸るに永代橋のな中にて四十  
 歳余の斬髪男矢庭小を以引捕へ懐中の  
 金三圓を奪取りあまの三浦川中へいぢられ  
 たるはあまの三浦君の憐れまひてあまの方へ  
 送り遣せしを側の人々ま命したる程小船の濱  
 町の河岸おるる折ら十七日の月ゆる本所方  
 さのゆりて夜に初更おるる時化老人識

甲見足屋 渡辺彫栄

